# Strong Core, Steady Growth

強固に安定した基盤事業と 着実に進展を見せる成長事業

2010年2月26日

宝ホールディングス株式会社 代表取締役副社長 大宮 正



目 次

*p*2

- I. 会社概要
- II. 酒類·調味料事業 事業戦略
- Ⅲ. バイオ事業 事業戦略
- IV. 健康食品事業 事業戦略
- V. 財務戦略
- VI. 事業の成長イメージ



京都

■ 設立:1925年

■ 上場市場:東証・大証一部(コード番号:2531)

■ 本店所在地:京都市

■ 代表取締役社長: 大宮 久

■ 資本金:13,226百万円

■ 時価総額:116,251百万円 (2009年12月30日現在)

■ 売上高:192,790百万円

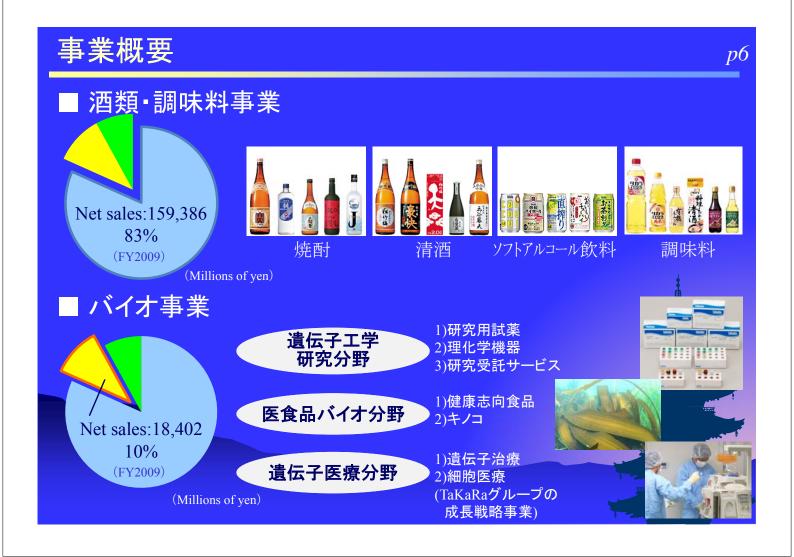
営業利益:8,851百万円

当期純利益:5,639百万円

(2009年3月期)







#### ▼宝酒造グループの売上高構成比



(Millions of yen)

当社販売データ

	Categories	Domestic Market Share	Position	
	焼酎	14.0%	1st	
	甲類焼酎	29.4%	1st	
	清酒	7.0%	3rd	
	For Gift Use(1.8	1st		
ソフトアルコール飲料		11.8%	4th	
みりん(Type-1)		52.5%	1st	
		(2008CY)		
Courses 日刊蘇洪产業清報 海稻食日纮社日報(日刊奴汝语行社)				

## バイオ事業の事業概要

*p*8

▼タカラバイオグループの売上高構成比 (Millions of yen)



遺伝子工学研究 16,733 88%

# ボラゴン ジェノミクス センター 理化学機器 2,177 12%

(FY2009: Year ended March 31, 2009)

リアルタイム PCR装置 記受託 -ビス 9 14% 学機器 7 12% 研究用

研究用試薬 11,906 63%

VVVVV

クロンテック社の蛍光タンパク質

#### バイオ企業番付2010

EAST		WEST
•中外製薬 •武田薬品工業	YOKOZUNA	<ul><li>・協和発酵キリン</li><li>・<u>タカラバイオ</u></li></ul>
・第一三共 ・富士フィルムホール ディングス ・ファイザー ・ロッシュ・ダイアグ・ノスティクス ・ノバルティスファーマ	OZEKI	・アステラス製薬 ・エーザイ ・大塚ホールディングス ・田辺三菱製薬/ベネシ ス/バイファ ・キリンビール/メルシャ ン/キリンビバンッジ/キ リン協和フーズ/キリンア グリバイオ

Source:目経BP社

#### 1842 酒造業に参入(清酒の製造・販売を開始)

- 1864 焼酎、みりんの製造を開始
- 1912 新式焼酎を発売
- 1920 現在のブランドである清酒"松竹梅"を発売

#### 1925 寳酒造株式会社創立

- 1949 株式を上場
- 1967 中央研究所設置
- 1972 中国酒の輸入販売開始
- 1977 宝焼酎「純」発売

#### 1979 国産初の制限酵素を発売

- 1983 米国宝酒造設立
- 1984 タカラcanチューハイ発売
- 1993 遺伝子増幅法として幅広く利用されているPCR法の 関連特許ライセンスを全世界にわたり取得
- 1995 高効率遺伝子導入法であるレトロネクチン法を開発
- 2001 全量芋焼酎「一刻者」発売

#### 2002 持株会社体制へ

- 2004 タカラバイオ株式会社 東証マザーズ上場
- 2006 宝ヘルスケア社設立





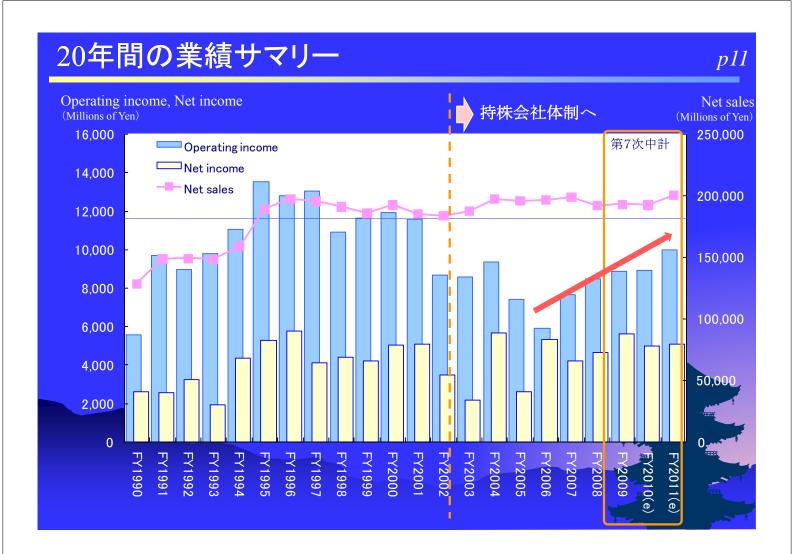


1930年代の



**企業理念** *p10* 

自然との調和を大切に、 発酵やバイオの技術を通じて 人間の健康的な暮らしと 生き生きとした社会づくりに貢献します。 р9

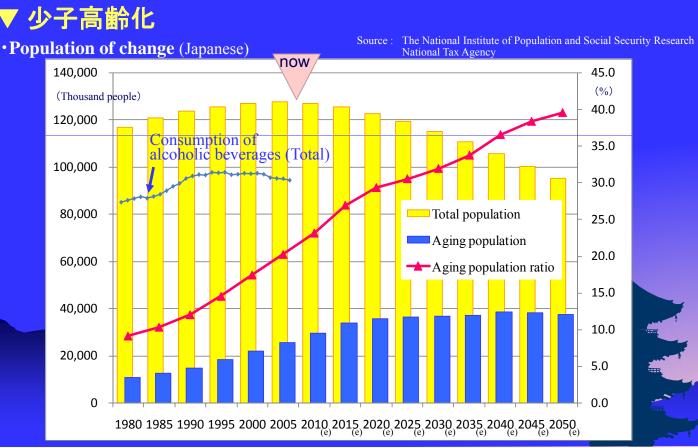






p13





### 国内酒類の事業環境(2)

p14



(足元のトレンド)

- ・生活防衛意識の高まり
- 低価格志向



単価の安い商品の需要拡大

### 7原材料価格の高騰



# 収益力の強化 成長事業への注力

- ① 付加価値の高い商品の育成 ("一刻者","知心剣","「白壁蔵」<生もと純米>" etc.)
- ② スタンダード商品のブランド強化
- ③ 利益マネジメントの徹底
- ④ 成長事業育成の加速

# 事業戦略①付加価値の高い商品の育成

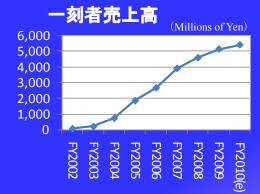
p16





100%芋焼酎

一般的に芋焼酎には 米麹が使用されており、 芋麹の製造は極めて 難しいとされている。



▼2008 "知心剣" **V2008** 

"松竹梅「白壁蔵」く生もと純米ン



~ 本格麦焼酎~

独自の製法で、 麦本来の香りと 味わいを実現。



~ 清酒~

江戸時代から続く伝統技法 「生もと造り」で仕込んだ清酒。 まろやかでやわらかい味わい が特徴。 1. 低価格志向を捉えた商品展開

2009年 <極上>宝焼酎の中小容量ラインナップ強化

2. 不況下の消費者二一ズに応える商品群

量販系スタンダード商品の 販売を強化





<極上>宝焼酎 25% 900ml / 1.8L

## 事業戦略③ 利益マネジメントの徹底

1. 継続的なコスト削減 ~ since FY2003 ~

生産コストや管理コストに厳しい目を向けて効率化に努める

2. 徹底的な販売促進費管理 ~ since FY2006~

セールスが費用対効果を簡単に確認できるようなシステムを構築

## 事業戦略 ④ 成長事業育成の加速

p18

### ▼ 海外事業の拡大

- ・米国清酒シェア1位 米国宝酒造で、需要拡大に対応し、清酒の生産能力を増強。
- ・中国には清酒「松竹梅」やみりん、焼酎を製造・販売する 宝酒造食品有限公司がある。



米国産の清酒「松竹梅」 (米国宝酒造)

## ▼ 調味料事業の拡大

#### 家庭用市場

中食市場

- ・調味料加工業務用事業本部の立ち上げ (2006年)
- •技術支援体制の構築
- •加工業務用商品の開発



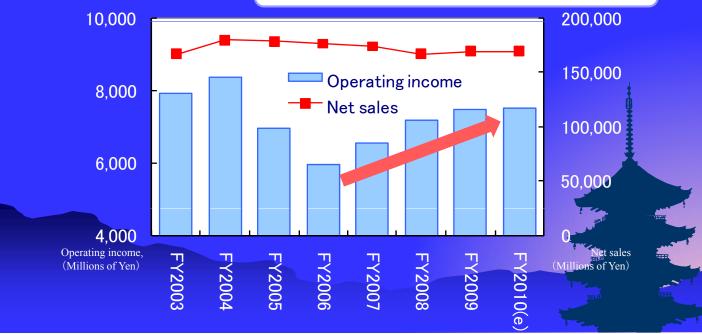
調味料カスタマーセンター

## Steady business performance in late years

Takara Shuzo Group

**FY2010(e)**: forecast announced Nov. 5, 2009 Net sales: 169,300 million yen (Δ0.0% y-o-y)

Operating income: 7,500 million yen (+0.5% y-o-y)





# 遺伝子医療分野における研究開発を 積極的に推進する

- ① 収益力の強化
- ② レトロネクチン法のライセンスの推進
- ③ 遺伝子治療、細胞医療の臨床開発を自ら進める etc.

#### 基本的な事業戦略

遺伝子工学研究と医食品バイオの2つの事業分野で築いた安定収益を遺 伝子医療分野に投入し、遺伝子医療技術を完成させ、収益の拡大を図る

1. 遺伝子工学研究 : 安定収益基盤 2. 医食品バイオ : 第二の収益事業化 3. 遺伝子医療 : 将来の成長事業

# 事業戦略① 収益力の強化

p22

#### 1. 2005年 クロンテック事業を買収

(M&A effect)

・クロンテック商品の原価低減 (クロンテック製品の大連への 製造移管)

etc.

2. 健康志向食品の販売を宝 ヘルスケア社へ移管する など、医食品バイオ分野 の収益を改善

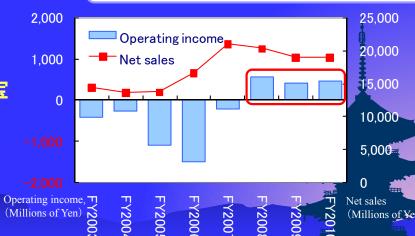
**Steady business performance** in late years

Takara Bio Group

**FY2010(e)**: forecast announced Jan. 29, 2010

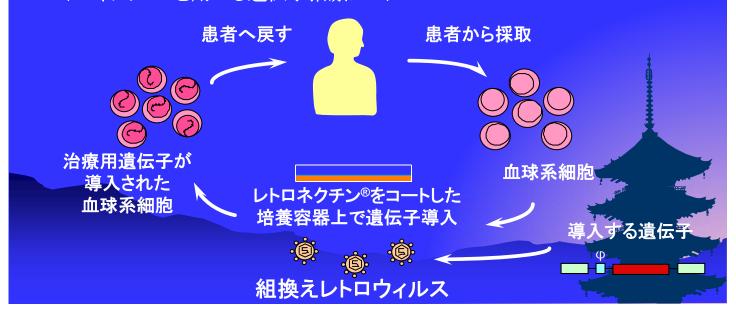
Net sales: 18,920 million yen (+0.0% y-o-y)

Operating income: 465 million yen (+9.0% y-o-y)



(Millions of Yen)

- ▼ レトロネクチン法の全世界における独占的実施権を保有
- ▼ 公的な医療機関46施設の採用と、海外の4つの民間企業に ライセンスアウトしている
  - ・レトロネクチン®を用いる遺伝子治療プロトコル



# 事業戦略③臨床開発の推進

*p*24

### ▼タカラバイオグループで実施している臨床開発プロジェクト

#### •遺伝子治療

	対象疾患	地域	提携先
HSV-TK遺伝子治療 (ドナーリンパ球輸注療法)	再発白血病	日本	国立がんセンター中央病院
HSV-TK遺伝子治療 (ハプロadd-back)	高リスク造血器 悪性腫瘍	日本	国立がんセンター中央病院
TCR遺伝子治療	食道がん	日本	三重大学医学部
MazF遺伝子治療	エイズ	日本	医薬基盤研究所 霊長類医科学研究センター

#### •細胞医療

	対象疾患	地域	提携先
がん免疫再建療法	多発性骨髄腫、頭頚部が ん、食道がん、卵巣がん	日本	三重大学医学部
がん細胞免疫療法	消化器がん、肺がん	日本	京都府立医科大学
がん細胞免疫療法	腎がん	中国	中国医学科学院がん病院
がん細胞免疫療法	難知性がん	中国	天津医科大学天津市腫瘍病院
がん細胞免疫療法	肝細胞がん	中国	中山大学がんセンター

# 将来の成長事業となるよう確実に育成する

タカラバイオの 独自の先端技術

+

宝ヘルスケアが活用する 宝酒造のマーケティングカ、販売ノウハウ

アジア古来の食材の機能を解析する



昆布「フコイダン」 (ガゴメ昆布のヌメリ成分)



明日葉「カルコン」





## V. 財務戦略(第7次中期経営計画)

p26

(FY2009~FY2011)

既存事業における通常の投資に加え、 成長のための投資に資金を投下し、 そして積極的な株主還元を実施する。

成長のための投資:3ヵ年累計

100 @円以上

株主還元総額:3ヵ年累計

┃ ┃ ┃ ┃ 億円以上の実施(これまでの2倍規模)

株主還元性向:下限値

**りし** %の設定\*

(\*1)以下の式で算出します。

株主還元総額(配当総額+自己株式取得額)

みなし連結当期純利益\*2

(\*2)みなし連結当期純利益 =(連結経常利益-受取利息·配当金+支払利息)×(1-法定実効税率)

強固に安定した基盤事業と 着実に進展を見せる成長事業 バイオ事業

健康食品事業

酒類•調味料事業

## Forward-Looking Statements

p28

Statements in this document, other than those based on historical fact, concerning the current plans, prospects, strategies and expectations of the Company and its Group represent forecasts of future results. While such statements are based on the conclusions of management according to information available at the time of writing, they reflect many assumptions and opinions derived from information that includes major risks and uncertainties. Actual results may vary significantly from these forecasts due to various factors.

Factors that could influence actual results include, but are not limited to, economic conditions, especially trends in consumer spending, as well as exchange rate fluctuations, changes in laws and government systems, pressure from competitors' prices and product strategies, declines in selling power of the Company's existing and new products, disruptions to production, violations of the Company's intellectual property rights, rapid advances in technology and unfavorable verdicts in major litigation.